

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 1月 3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第46994400021号
法人名	(有)フェルナンデス
事業所名	ひだまりの家 こもれび
所在地	伊佐市菱刈徳辺1656 (電話) 0995-26-1138
自己評価作成日	平成25年1月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは、あなたが穏やかに笑顔ですごせるよう、ゆっくり、ゆったり家庭的な環境の中であなたの声を聴き、意思の尊重をし、あなたらしい生活ができるよう努めます」を理念に掲げ、身体拘束に関わるすべてを禁止として申し合わせ、手を出しすぎず、意思の確認をしながら、日々の生活が楽しみのあるものになるように、利用者・スタッフ一緒になって生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景の広がる自然環境に恵まれた地区に建てられており、同敷地内にはデイサービス・有料老人ホームが併設されている。
開設当初より地域との良好な関係が築かれており、ボランティアによる朝夕の見守り、ホームの行事や味噌作りなどホームの協力者として地域の方々が多数訪れてくれる。また、ホームに「相談室」を設置して地域の独居高齢者の見守りや困っている事などへの対応などを行い、高齢者の多い当地区の「支援センター」の看板を地域から頂くなど信頼を得ている
開設初年度でもあり、利用者も元気な方が多く、自立を妨げないケアに心がけ、行事や外出レクリエーションを瀬回に設けて今だからできることに取り組み、ホームに閉じこもらない生活を支援している。
運営推進会議の参加者を固定せずに、ときには家族中心の会を設けたり、利用者の在宅時からのケアマネージャーに出席してもらうなど充実した内容の会議となっている。
職員育成に力を入れて定期的な勉強会や外部研修などで職員の質の向上に取り組み、余裕のある職員体制により利用者個々に応じた個別支援や質の高いサービスの提供がなされている。
利用者の表情が明るく、こたつを囲んでおしゃべりもはずみ、安心して自由な生活が送れている様子が伺われた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、ミーティング等で振り返りながら日々努力している。	事業所の役割を理解しながら職員に分かりやすく浸透しやすい理念を作成している。朝礼時やミーティング時に振り返る機会を設け、理念に沿ったケアの実践に繋げている。開設初年度でもあり、新入職員には特に理念を理解してもらえるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や声かけ。野菜等を頂いたり、地域行事への参加、日常の挨拶、声かけ、隣の独居の方の見学等で交流している。	集落の奉仕作業や避難訓練などに積極的に参加して交流に努めている。また、ホームを地域の「相談室」として広報を行い、地域から「支援センター」の看板を頂くなど信頼を得ている。近隣の独居高齢者の見守りやホームの行事にも多数の方々が訪れるなど地域との良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	開設と同時に地域の方等への相談室を設け、地域への広報も行い、今後、認知症教室等も検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見については、職員ミーティングで報告、改善等へ向けて検討している。	集落代表・民生委員・在宅時のケアマネ・家族・行政・職員など幅広い参加者により2ヵ月に1回開催している。ホームの現状報告、行事や看取りについて、行政からの情報、地域の高齢者についての話し合いなど毎回充実した内容の会議が行われている。ときには、家族中心の会議も設けるなどして全家族に運営推進会議が浸透するように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議などへの参加や、助言や情報など頂きながら、関係づくりに努力中。	行政とは日頃より連携を図りながら協力関係を築くように努めている。市より敬老の日のお祝いに訪れることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設前のミーティングから、身体拘束にかかわるすべての禁止を伝え、折りに触れ、振り返りながら実施中。	運営規定にも明記しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日常の業務の中でも拘束にあたる行為を、職員全員でその都度考えるようにして、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように徹底している。他にも定期的な勉強会や「虐待の芽チェックリスト」により職員全員で振り返ることもある。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を用いたりしながら、虐待の具体的内容等で振り返り、申し合わせている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等に参加して学んでいるが、活用できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時説明し、質問等を尋ね、同意を得ながらの説明を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時を利用したり、花見会など家族参加時に声をかけ、意見が言える関係作りに努力中。また、第三者委員を設置している。	日常の来訪時や電話連絡時、家族会や催し物の際に意見・要望を聞き出すように心がけている。また、重要事項説明書に「管理者・担当者が不在であっても他の職員誰でも対応できるようにしている」との明記もある。また「家族関係」ノート記録により職員間の情報の共有がなされ、出された意見・要望については職員間で話し合っ改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の声には耳を傾け、幹部会で検討し、可能な限り反映している。	毎朝の朝礼時や毎月の全員参加のミーティングで職員の意見・提案を引き出すようにしている。また、利用者の現状確認や必要に応じた勉強会も取り入れている。出された意見・提案については可能な限り反映できるように検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	頑張る人と、そうでない人との差をつけ、賞与等で考慮し、資格を取得した人には手当を出し、やる気を促進するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等への自主参加を呼び掛け、交通費などの支給や勤務体制等に考慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は、いい結果は出ないと考えている。それよりも、いろんな研修会への参加を促進している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと向き合って、話を聴き、寄り添う事を念頭に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、入所前の時点から面談し、お互いに言える関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、内容を聞き分け、助言し、解決の手助けができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は手を出しすぎず、一緒に行うという事を念頭においている。また、そうした日々を重ねるにつれ、徐々に、お互いに言い合える関係になってきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・声を聴き ・一緒にかかわっていくという気持ちで接している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれに応じて関係が保てるよう、可能な限り連絡や調整・支援している。	墓参りや入居前からのなじみの美容室など関係が途切れないように支援している。また、日用品の買い物などもこれまでの生活の継続として支援している。携帯を所有している利用者もあり、気軽に友人知人と連絡を取り合っている。また、定期的に帰宅して自宅で知人との時間を過ごしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に加わってコミュニケーションや関係作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までには例がないが、考え方としては持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	提案する場合も、意思確認しながら把握に努めている。	外出の際の車の選択や座る場所、衣類の選択、食事の嗜好など何をするにも本人の意思確認をしてから行うように心がけている。また、利用開始前の情報だけに頼らず、本人の表情や言動からも思いや意向を検討している。「出来ることは手を出しすぎないことを日々重ねることにより徐々にお互いが何でも言い合える関係になってきた」との自己評価もあり、利用者との信頼関係が築かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も関係者から情報を得るなどし、可能な限り努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ内容とせず、一人一人の力量に合わせるように努めており、いくつかの選択肢を用意し、選んでもらうことにも取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間では、意見・アイデア等出し合い、話しあっているが、他からの意見等まだまだ足りず、努力が必要である。	本人・家族の思いや意見を聴取し医師・看護師を交えてサービス担当者会議を開催して個々に応じた介護計画を作成している。楽しみのある生活として買い物や外出、外泊支援や趣味の継続、なじみの人や場との関係継続の支援など取り入れて個別性のある現状に即した介護計画が作成されている。退院後など必要に応じて随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録など様式を検討したり、内容等の見直し、書き方の勉強会を行ったりなど、試行錯誤の段階である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるよう、法人自体で検討中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不足しており、今後の課題であるが、ボランティアの受け入れを実施した。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の主治医を継続して受診し、相談し助言が頂けるよう関係作りに努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホームより受診同行しており、結果は家族に随時報告している。協力医療機関とは24時間緊急時などの連携が図られている。また、訪問看護ステーションとの契約により利用者の健康管理が密におこなわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護事業所内の看護師と連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況を伝え、通院可能な段階での早期退院をお願いし、療養指導等頂き、リロケーションダメージを最小にとどめるよう働きかけている。(実例あり)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人自体で方針が定まっており、それに向け必要時に段階に応じて説明し、実施に向けて取り組んでいる。	重度化・看取りにおけるホームの方針は家族にも分かりやすい内容の指針を作成して入居時に説明している。同時に同意書と終末期及び急変時における確認書も作成している。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医・家族との話し合いのもと方向性に沿ってホームでできる最大限の支援に取り組む方針である。また、本人の思いや希望は日常の生活で出されたことばを記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時、看護職の訓練は行ったが、介護職については口頭・マニュアルのみで不安が大きく、訓練検討中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力もあり、訓練等行っている。	年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。地域の方々の参加もあり、ホームの自動通報システムにも登録されている。スプリンクラーも設置されており、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等での勉強会、事例を用いた振り返り、再確認を行っている。	利用者個々に応じて声かけなど配慮しながら対応している。日常の業務で気づいたら都度話し合い、他にもミーティング時に勉強会を設けて職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り対応を行っており、選択肢を示した上で、全てに意思確認を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人本位で考え、不足する所へ手をそえている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、日常の中で一緒に行き、一緒に食べ、「一緒に」を実施している。	日常的に調理や下ごしらえ、後片付けなど出来ることは手伝ってもらっている。他にも外出の際の弁当作りや行事食の献立など利用者の意見をもらい、干し大根・味噌作り・おはぎ・団子・ちまき・干し柿なども利用者のアドバイスをもらいながら職員と共に楽しみながら行っている。庭やテラスでの食事やお茶、バイキング料理・焼肉会・喫茶店などホーム内でも趣向を凝らして「食」を楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に確認・把握しており、申し送りながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は確実にスタッフで確認、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状況を見極めながら使い分け、トイレでの排泄がスムーズにいくよう申し合わせ実施中。	個々の排せつ記録を取り、排せつパターンを把握して、トイレでの排せつを支援している。入居後に改善された利用者もおり、ほぼ全員が日中は布パンツで過ごしており、継続できるように職員のトイレ誘導などで自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、体を動かしたり看護職によるマッサージなどをし、不快のないよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人希望の意思に合わせられるよう、日々申し合わせているが、全ての希望通り行えているとまではいかない。	個々の身体状況や希望に沿って柔軟に支援している。夏は毎日入浴してもらい、冬は一日おきを基本としている。入浴をためらう利用者にも声かけの工夫やタイミングをみて無理強いしない入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決める事なく、本人本位で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬に努めているが、詳細の把握には至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業、レク活動など、一緒に行いながら、個々に応じて、強制する事なく実施に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	室内で過ごさず、戸外へ出る事を申し合わせながら、日々努めている。1回/月の遠足等を実施している。	日常は近隣の散歩や買い物に出かけている。元気な利用者が多く、毎月弁当持参で季節の花見やイルミネーション見学、曾木の滝、飲料水工場見学など外出レクリエーションを取り入れ、ときには、観劇会などにも出かけている。個別支援で自宅の稲刈りに連れて行った例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	ほとんどの利用者が、家族管理となっている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話等の制限なく、家族へも伝え、ハガキ等での交流も支援している。 (携帯電話所有：2名)		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	必要に応じて臭い消しを使ったり、換気・温度調節に気を配り、四季の花を飾ったり、壁飾りを作り貼ったりなどしている。	木のぬくもりを感じる事が出来る建物は、中心に共有スペースを設け、台所もオープンにして食事の準備の様子やにおいなど五感を刺激してくれる。食事のテーブルとテレビとソファの置かれたくつろぎのスペースに分かれており、生活にメリハリができるように配置を工夫している。リビングからはテラスにも直接出ることができるので、開放感がある。広い共用空間には少人数で過ごすことができるスペースも確保されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファの配置などを変え、自由に過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	それぞれの利用者に合わせ、家族が中心となって行っている。	持ちこみに制限はせずに使い慣れたものやこだわりのあるものが持ち込まれている。仏壇や位牌、家族の写真やお気に入りの小物、ジグソーパズルが趣味の利用者の居室には作品が飾られてそれぞれに居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	表札を出したり、手摺りの設置やイスの設置、またはトイレへの案内表示等行い、安全への配慮をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない